

東京歯科大学同窓会会報 第365号

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2
理事会のうごき	3～4
学 術	5～6
母校だより	7～10
東京歯科大学 創立120周年記念事業	11～15
父兄会だより	15～16
支部のうごき	17～22
ふるさと自慢	23
クラス会だより	24～26
OB会・グループ・サークルだより	27
すいどうばし	28～29
庶務日誌	30
逝去会員	30～31
追 悼	32～34
へんしゅうこうき	35

(表紙 野村 淳)

---

# セピア色の写真館 ～思い出の一枚～



写真上は昭和41年の発表会、写真下は創立30周年記念パーティー



## 謡曲部

創部は昭和24年に遡ります。町田幸雄名誉教授（小児歯科学）が進学過程の2年生の時に、有志を募り発足したのですが、喜多流職分の栗谷新太郎師に市川まで来て戴いて本格的に練習を始めました。当時の市川病院の加藤倉三教授（オーラルメデシン）、松尾武夫教授（小児科学）、進学過程の南部実教授（生物学）、河合貝吉教授（化学）、水道橋では三崎鈔郎教授（放射線学）を始めとして多くの先輩からの物心両面の暖かい援助を得て順調に活発となり、一時は学生のみならず医局員の参加もあり50名を超えた事もありました。勿体ないような先生方に直接お教を戴いた私達は幸せであったと、今でも有難く感謝しています。

活動の重点は秋の演能発表会でありました。番組は連吟や仕舞、舞囃子から能を完全に一番演じるもので、単科大学では勿論私達が唯一であろうと自負しておりました。

それには大変な準備と助けが要る

わけで、面（おもて）、衣裳は栗谷師からお借りし、着付け等は、師匠のご家族、お弟子さんまで動員してご協力をしていただいて演ずることが出来ました。今思うと頭が下がる事ばかりです。発表会に向けての春、夏の合宿も思い出深く、実に有意義でした。しかし昭和50年代に入ると、部員の確保が困難となり、1学年1～2名という年が続き、平成2年卒の嶋田みゆき先生、平岡修先生を最後に解散となりました。

今改めて当時を振り返る時、ただ懐かしいだけでなく、何人が集まると学年を超えて謡曲のみならず、歯科界や日本、世界の将来の事に関して、真剣に熱く、そして自由に討論を重ねるといふ伝統が築かれ継続されてきたように思います。

現在の金子 譲学長、井出吉信副学長が謡曲部出身である事は、謡曲部が単なるクラブ活動の場ではなく、諸先輩から数多くの生き方の智慧を学んだ心身を鍛える場であったことを何より物語っているといえま



しょう。クラブは無くなっても謡曲部出身である誇りを失わないようにこれからも胸を張って生きたいというのが、皆の等しく抱き続ける思いではないでしょうか。

（昭和43年卒・佐藤晃一 記）

「写真は昭和41年の発表会と右下は妻良の合宿の風景です。」



## まっすぐ



副会長

服 部 玄 門

只今、本部同窓会より学校法人理事長井上裕先生の計報に接し先生の御永眠の趣を承知致しました。本年1月にお目にかかった時には、大変御元気だったと記憶して居りますが、先生に病魔がひそんでいたとは知るよしもありませんでした。日頃は御壮健であられただけに、ただ驚き入り暫くはその事実を否定しつづけたぐらいであります。

参議院議長を最後に政界を離れられ、大学の再構築に日々邁進されて居られた矢先のこと故、私共と致しましても非常に残念であります。更に創立120周年記念事業の一環として水道橋移転を決断され、その緒についたばかりでその形を見ることなく去ってしまったのは心残りだと推測するところであります。

ポツカリ空いた空洞と柱を失った今、私共同窓は、一致団結して大学を支えて行かなければならないと、より

一層の決意をしたところであります。先生の御冥福をお祈り致します。

こんな大きな打撃を受けた私共であります。4月に改定された医療保険でも打撃を受けてしまいました。医師として裁量権の消失、規則でのしぼり等に、本来の歯科医療とは徐々にではあるが乖離している様な気がしてならない。しかも全体では0.82%の引き下げで、連続してマイナス改定になるわけです。これは何故なのか。今を去る中曾根「臨調行革」のもと厚生官僚によって医療亡国論が声高に主張され、医療費抑制が長き時代の流れとなり、医師数をできるだけ少なくする政策がとられはじめて居り現在に至っている。

このような中で「医に経済を合せると言う社会的共通資本としての医療の原点を忘れて、経済に医を合せるという市場原理主義的主張に基づいた政策へ転換を象徴するものであった。現在このような医療体制は、既に、この時から形成されており、戦後最大の危機を迎えていると考えられる。」と東京大学名誉教授の某先生の発せられた言葉である。まさに、その通りの事象が目の前に出現して来たのです。このような状況が続く限り歯科医療の崩壊が叫ばれるのは間近にせまっているのではないかと危機感を感じてならない。

この悪状況の中、同窓会報(363号)に保険部委員の英知を結集し、今回の保険改定の要点と概略を解りやすく掲載させていただいたところです。まだ、発足して間もない委員会ではありますが、投稿までの時間的余裕のない中、日夜ひたむきな努力と情熱によってこの情報が発信されたことに心から感謝を申し上げたい。これも真直ぐな心と一致団結の心の結果生み出されたものと思っています。

そこで、今年は、谷川俊太郎の詩のように進んでいきたいと願っています。その一編を取って掲載させていただき巻頭の言葉と致します。

『まっすぐ』

谷川俊太郎

キューピットの矢のように

まっすぐ

レーザーの光のように

まっすぐ

まっすぐはとどく

まっすぐは貫く

まっすぐは跳ね返る

まっすぐは終わらない

赤んぼの泣き声のように

まっすぐ

玉突きのように

まっすぐ

まっすぐを生み出す力は

まっすぐではない

曲がりくねり

せめぎあっている

「魂のいちばんおいしいところ」

谷川俊太郎詩集 1990年

(株)サンリオ

# お知らせ

## 理事会より

- 現執行部では、山積した諸問題に対応すべく、会則の検討をはじめとして、既存のルールに対する見直しを行なっています。  
6月29日に発足した会則等検討委員会は、その足がかりとなるものです。  
現在、会員の皆様の声をもとに、新年度事業計画をたてているところですので、ご意見、ご要望等をいただければ幸いです。

## 同窓会事業・行事

- 第36回全国ゴルフ大会  
と き 平成20年9月4日(木)  
ところ 埼玉県・霞ヶ関カンツリー倶楽部
- 平成20年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成20年11月22日(土)  
ところ ホテルメトロポリタン エドモンド  
(千代田区飯田橋3-10-8)
- TDC 卒後研修セミナー2008プログラム  
実技セミナー  
No.5 導入しよう！ インプラント治療  
9月6日(土)・7日(日)  
ベーシックセミナー  
No.6 パーシャルデンチャーをもう一度学ぼう ～設計の秘訣～  
10月26日(日)
- 卒研フォーラム  
No.7 患者さんの健康を支援する  
～歯科医師のできること歯科衛生士にできること～ 11月9日(日)  
問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術部  
Tel.03-5275-1761

## 母校関係行事・案内

- 平成20年度東京歯科大学学会 詳細は10ページ参照  
第286回 総会 平成20年10月18・19日(土・日)  
演題締切 8月26日(火)
- 平成21年度東京歯科大学入学案内(入試要項は8～9ページに掲載)

## 各種委員会委員(新設委員会)

(平成20年6月29日～平成21年12月31日)

### 会則等検討委員会委員

◎渡谷 国男(S43卒) ○加藤木 健(S46卒) 斎藤 秀子(S48卒) 小林 顕(S56卒)  
小林 慶太(S58卒) 平井 基之(S59卒)

◎印は委員長 ○印は副委員長

# 理事会のうごき

## 第3回理事会

平成20年5月10日（土）午後2時30分～午後5時10分

於 特別会議室

出席 30名

議長 片倉副会長

### 会長挨拶

「先日“本部同窓会の謝罪と決意”を会員に送付いたしましたところ様々な意見がありました。本部と支部との状況の反応が違っておりますけれども、おおかた本部の考え方を了解していただけたのではないかと考えております。我々は今回大きな山を越えたと考えております。また同窓会本部として運営できるのは各委員会の先生方が主になり、活発に活動していただいているからだと思います。委員会としても予算の範囲内で新たな事業を起こしていただき、次年度は新たな「改革と発展」をテーマに考えていただければと考えております。」と挨拶。

### 黙 禱

平成20年3月13日から5月9日まで連絡があった10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

- 1) 平成20年4月10日から12月までの日程を報告。
- 2) 会則検討委員会について  
会則検討委員会の設置について経緯を説明し、早急に準備委員会を立ち上げたい旨報告。
- 3) 同窓会事務長梅津氏の契約について説明、報告。
- 4) 事務職員の給与について説明、報告。
- 5) 奈良県支部の状況について  
奈良県支部会員が2名であったが、支部長が転出。現住支部会員1名が体調不良のため後任を務めるのが不可能なため、奈良県に住所のある先生に当面連絡係り（支部長不在）を依頼。
- 6) 各部報告
  - (1) 総務部
    - ① 地域支部連合会長交代について2件報告。
    - ② 支部長交代および支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について9件報告。
    - ③ 平成20年度春の叙勲受章者を報告、祝意を表した。

- 瑞宝中綬章 高添 一郎 氏（東京都・昭29卒）
- 旭日双光章 伊東 兼明 氏（神奈川県・昭35卒）
- 旭日双光章 山下 雄司 氏（群馬県・昭38卒）
- 旭日双光章 三宅 健一 氏（長野県・昭42卒）
- 瑞宝双光章 高澤 孝幸 氏（長野県・昭25卒）
- 瑞宝双光章 秋野 博尚 氏（秋田県・昭30卒）

- ④ 支部・地域支部連合会等学術講演会講師派遣交通費の支出について4件報告。

### (2) 会計部

- ① 平成20年度夏季手当について報告、承認。
- ② 平成19年度東京歯科大学同窓会決算書監査報告について  
4月23日開催監査会の概略を説明、監事を代表して常任監事より「標記決算書を精査のうえ適正に処理されていた」旨を報告。

### (3) 渉外部

- ① 各支部の歯科医師会等役職者名簿の作成については、引き続き作業を継続していく方針であるが、来年役員改選を控えている都道府県が多いため、その後に本格的に作成、支部長に配付の方針である旨報告。
- ② 東京歯科大学関連病院の同窓生名簿作成（医長クラス）について、名簿を作成し近在の先生方に協力応援していただくとともに、大学庶務課から資料をいただくことの下承を得た旨報告。

### (4) 学術部

- ① 委員会および2008年度卒後研修セミナーについて説明、報告
- ② 前回理事会で承認された日歯生涯研修セミナーにおけるカードリーダーの助成について各支部に連絡、現在の状況を報告。

### (5) 広報部

- ① 同窓会報に同封される印刷物の費用について報告。
- ② 母校創立120周年記念事業の紹介について学長に依頼書を提出、執筆依頼したことを報告。
- ③ 個人情報保護法への広報部としての対応および投稿原稿等の窓口設置について委員会に諮問している旨報告。

### (6) 厚生部

- ① 平成20年度逝去会員は5月9日現在で累計51名、規程により弔慰共済金を支給した旨報告。

- ② 第36回ゴルフ大会について説明、報告。
- (7) 保険部
  - ① 第3回委員会を開催、情報部より申し出の保険委員会報告をホームページに掲載する件について協力することを決定した旨報告。
- (8) 情報部
  - ① 第3回情報部委員会を開催、ウェブサイトの編集、アップデートを業者に委託したく次回の委員会で説明を受けることを報告。

#### 各地域選出理事報告

- 1) 戸田理事（北海道）
  - 次のとおり報告。
  - ① 4月22日に臨時総会を札幌で開催したこと、8月23日に北海道地域支部連合会総会を札幌支部主催で開催予定であることを報告。
  - ② 4月以降、10支部のうち3名の支部長が交代したことを報告。
  - ③ 北海道連合会報が今年で35号になり、高山紀斎先生を特集していることを報告。
- 2) 岩沼理事（東北）
  - ① 青森県・宮城県2支部の支部長交代を報告。
  - ② 6月21日東北地域支部連合総会が開催予定であることを報告。
- 3) 高橋理事（東京）
  - ① 4月8日付で東京地域支部連合会前会長等が関与した贈収賄事件の総括を連合会全会員に出したこと、およびその内容について報告。
  - ② 会費納入に際して支部を通さない会員が多いので、何らかの方策を常任理事会等で検討いただきたい旨要望。ちなみに、同窓会員数9,053名中支部に属さない会員が2,992名。東京地域支部連合会では2,196名中821名で37.4%となっている旨報告。
- 4) 片桐理事（信越）
  - ① 信越支部連合会会長の交代について報告。
  - ② 6月21日信越地域支部連合会総会が新潟市で開催予定であることを報告。
- 5) 宮本理事（北陸）
  - ① 5月31日富山県支部で奥田克爾先生の講演会を予定しているが他校卒業の申し込みがあることを報告。
- 6) 小室理事（近畿）
  - ① 奈良県支部について説明、報告。

- 7) 安田理事（中国）
  - ① 7月12日に岡山県支部総会が開催予定であることを報告。
- 8) 濱田理事（九州）
  - ① 支部長が2名交代したことを報告。
- 9) 大学の報告
  - ① 創立120周年記念事業および移転問題について説明、報告。
  - ② 本部が使用している事務室は現在大学から無料で借りているが、監査法人より数年前から有料にする様に指導があることを報告。  
金額については今後交渉することとして、来年度以降は予算計上してほしい旨要請があった。
  - ③ 5月8日に120周年記念誌の運営会議が開催され、記念誌のサイズについて検討。コンパクトな本になりそうである旨報告。

#### 協議事項

- 1) 同窓会会費および共済負担金納入延期願いについて2件承認。
- 2) 同窓会会費および共済負担金納入免除願いについて3件承認。
- 3) 共済負担金納入免除願いについて3件承認。
- 4) 平成21年度本部同窓会執行部は、3つの基本理念を明確化し「変革と発展」を目指した事業運営に当たることを説明。承認。
- 5) 同窓会会長賞への副賞について承認。受賞対象者は母校に依頼し、選出。
- 6) 大学との意見交換について  
120周年記念事業・大学の移転問題等意見交換をして、お互いに理解しあった上で各支部に説明、支部末端会員も理解し協力していただくためにも大学の先生方との懇談会を開催したい旨説明、承認。
- 7) 平成21年度各事業計画および予算要求書の提出について  
事業計画の立案と事業予算の作成を7月の理事会までに提出することで承認。
- 8) 共済事業についての今後の対応について  
今後同窓会として共済対しての考え方・方法について種々協議した結果、7月の理事会までに厚生部委員会において纏めることを了承。

## 卒研レポート2008

### 「見直そう 口腔外科疾患の診断と基本手技」

本日は口腔外科のスキルアップのための一日です。実習ではオペガムを使用しての切開、縫合、結紮、豚顎骨を使用して切開、マットレス縫合、抜歯他を、学生時代のように講師の先生の親切丁寧な御指導のもと行いました。

1.「口腔軟組織疾患の診断」白板症では2～5%が癌化、赤板症では50～60%が癌化する事をふまえて口腔内を精査することが重要です。情報は患者さんへの問診で、いつから気が付いたか？何か思い当たる原因はあるか？疼痛や発熱を伴っていたか？はじめはどのような形状をしていたのか？病変は一途に増大してきたのか、あるいは増大と縮小を繰り返したか？などで得ます。症状経過がきわめて短い（時間から日単位）時は外傷や感染症が疑われ、これに対して思い当たる原因がなくほとんど無症状に増大してきた病変であればまず腫瘍を疑い、さらに経過が比較的短ければ（週単位）悪性の疑いが強く、極めて長ければ（年単位）良性腫瘍と考えられます。ただし、口蓋、頬、口唇粘膜下のゆっくと増大してきた腫瘍が、ある時期急速に増大しはじめた場合は小唾液腺原発の腺系癌が疑われ、その他理由もなく潰瘍が形成され知覚麻痺や運動麻痺が生じる場合も悪性の重要な兆候です。触診では病変と周囲健康組織との境界の状態、悪性では周囲に硬結があり、健康組織との境界が不明瞭なのが特徴です。口腔粘膜に疑わしい病変があり、現病歴で一カ月以上も治癒傾向がみられない

場合や、機械的刺激を除去して抗生剤の投与を行うなどの処置を施したにもかかわらず、1～2週間以内に治癒傾向がみられない場合は、確定診断と治療のために直ちに専門医に紹介することが必要です。

2.「難抜歯と埋伏智歯の診断」難抜歯前はレントゲン写真の準備、抜歯及び偶発症の説明、抜歯後はカルテに異常出血、異常疼痛はなかった事を記録しておく事が重要です。又抗凝固剤、抗血小板剤を服用している場合現在は投薬を中止しないで抜歯を行うのが望ましいというのがガイドラインにあり、止血、特に血餅で気道が閉塞しないように注意する事が重要です。ビスフォスフォネート投与中の方では、口腔状態を清潔にしてから抜歯を行う事が重要だそうです。

3.「下顎埋伏智歯のデンタル、パノラマ画像診断」デンタル撮影ではSnap-A-rayやHawe社のフィルムホルダーを利用すると偏心投影法が行いやすく舌下ひだにむけて、フィルム下縁をいれ閉口させればよく、又インスタント現像する場合は30秒強くしっかりもむ事とオイルをすいこまないように表示線までしか使わない事が大切です。

4.「菌性炎症の診断と投薬の基本」抗生剤投与後膿瘍が局限してきた、波動が触れてきたら、躊躇なく切開して絶対的菌量を減らし、消炎したら必ず原因の除去をする事が重要です。（切開の目的は1.絶対的菌量の減少。2.内圧の減弱で除痛をはかり、炎症の拡大を防ぐ、3.

感染巣を嫌气的条件から好气的に変える、です。）感染予防では、まずペニシリン系の抗生物質を使う事、もしくはマクロライド（クラリス、ジスロマック等）、第2世までのセフェムを使用します。（抜歯の場合で投与する時は1～2時間前にサワシリン2錠投与がよろしいです。）感染したらまず第2、第3世代のセフェム（オラセフ、フロモックス等）もしくは、ジスロマック、サワシリン（1日1500ミリ6錠）を投与し、それできない場合にのみ始めてニューキノロン系をだす事が大切です。また心内膜炎予防が必要な患者さんは、基本的には、観血処置を要する人すべてで矯正バンドの装着でも留意する事が大事です。

以上9時から4時30分まであっといふ間の大変有意義な一日でした。優しく実習指導して下さる先生方、わかりやすい講義をして下さる講師の先生方、実習機材の準備等を前以て、又当日朝早くからなさって下さった学術委員の先生方、どうも有り難うございました。明日からの臨床のために同窓の皆様、来年は是非ご出席なさってはいかがでしょう。



（取材・広報部 尾崎圭子）



## 卒研レポート2008

## 「実践 MTM・ステップアップコース」開催報告

紫陽花の色が目には鮮やかな週末、6月21日(土)22日(日)の両日東京歯科大学同窓会卒後研修セミナー2008「実践 MTM・ステップアップコース」が水道橋 TDC ビル血協記念ホールにて開催されました。

卒後研修セミナーでは2001年から2006年まで、MTMの実技セミナーを開催して来ましたが、今回は大幅に内容を変更し新たな企画でセミナーを開催しました。

本セミナーの企画要旨によると、「日常の臨床において、マスターしておきたい技術として MTM があり、補綴前処置や歯周治療の一環としてアップライト、エクストルージョン、レベリングなどが主に施術されている。しかし、適切な処置を行っているはずなのに、歯の移動に時間がかかったり、予定した方向に動かなかったりと、これでいいのか? という迷いは臨床家が経験されているのではないだろうか。それらの問題点を解消する講演と、レベリングの診断と治療、臼歯近心傾斜と前歯部のフレアーアウトについて実習を行う。また、初期の歯周炎に対する予防的な MTM についても

理解を深めて頂く。」という企画意図によってセミナーは構成されていました。

具体的内容として、「臨床における MTM~なぜ MTM を行うのか~」、「セットアップモデルの応用」、「MTM のメカニクス」、「歯周病と MTM」、「前歯部フレアーアウトの改善について」、「歯周疾患をともなった MTM の診断」について各講演がありました。新しい知見としての内容は「セットアップモデルの応用」、「歯周病と MTM」、「歯周疾患をともなった MTM の診断」で、なかでも本学水道橋病院・口健・保存・森山貴史講師が行った「歯周病と MTM」に関する講演は興味深いものでした。これまでの研究データを元に、歯周病による歯周組織の変化と歯周治療後に MTM を行うときの注意点とその予後について詳細な解説があり、引き続き矯正科と共同で治療した関連症例の呈示によって、より理解度が深まる講演内容でした。

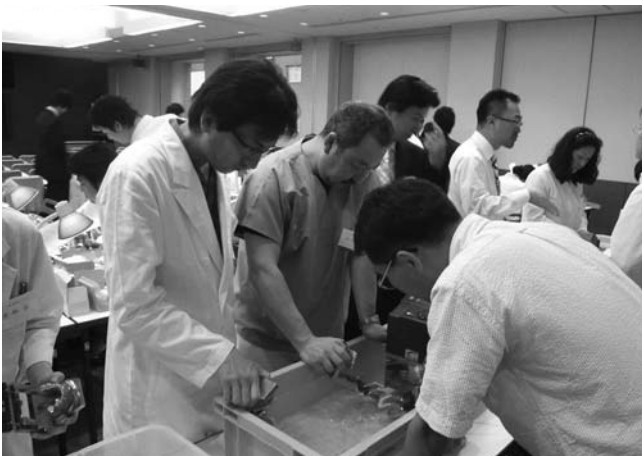
実習についてもこれまでと内容を一新し、上下顎のタイポドント咬合器を使用して実習が行われました。

下顎前歯部叢生に関しては「セットアップモデルの作成法とそれを用いた診断法」の実習から診断と治療方針を立案し、それに基づいた「3 inciser による審美回復」の MTM をタイポドント実習で体験するという、より実際の治療の流れに沿った実習を行っていただきました。また、下顎大臼歯の近心傾斜に対するアップライトスプリングの応用。上顎前歯部フレアーアウトの舌側移動では、タイポドント実習にて歯牙の移動とそのメカニクスについて、体感することが出来たと考えています。

このように、今年の MTM 実技セミナーはこれまで開催してきました基礎的な MTM セミナーに比べ、アドバンス的な要素が多いものでした。そのため、MTM の経験が浅い受講者に対応すべく、実習時間の延長等配慮が必要となりましたが、全体的に満足度の高い評価が得られたものと考えております。

受講された同窓の皆様、2日間のセミナーお疲れさまでした。

(学術部委員会 小林慶太)



# 母校だより

## 学校法人東京歯科大学理事長 井上 裕先生 ご逝去



### 井上家葬儀

平成20年6月22日午後0時55分井上 裕理事長が急逝された。享年80歳であった。井上家の葬儀が6月27日、28日に大本山成田山新勝寺光輪閣で執り行われ、多数の会葬者が故人のご冥福をお祈りした。(写真上)

### 自由民主党・東京歯科大学・井上家合同葬

平成20年7月31日(木)青山葬儀所において、葬儀委員長に森 喜朗元内閣総理大臣、葬儀副委員長に金子 譲東京歯科大学学長の5人が弔辞を述べられた。

井上理事長とは成田中学の同級生であり大本山成田山新勝寺貫主である 橋本照念大僧正を導師として読経が

行われた。次に森 喜朗元内閣総理大臣、福田康夫内閣総理大臣、河野洋平衆議院議長、江田五月参議院議長、そして金子 譲東京歯科大学学長の5人が弔辞を述べられた。

参列者には多数の国会議員を含む政界の有名人、歯科界の重鎮が顔を揃えた。

葬儀委員長として森元首相が、また喪主井上芳枝夫人が遺族代表としてご挨拶された。井上夫人は井上理事長の座右の銘である「得意淡然 失意泰然」を挙げ、私どもは泰然とはまだなれませんかと話されていた。

その後参列者の長い焼香の列が続いた。

(井上理事長合同葬詳細については10月号でまたお伝えする予定です。)



## 平成21年度東京歯科大学入学案内（東京歯科大学入試要項より）

### 1. 入試日程一覧（全募集人員128名）

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学	約45名	平成20年11月1日 ～ 平成20年11月5日	平成20年 11月8日	平成20年 11月11日	東京歯科大学 千葉校舎
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				
学士編入学	若干名				
一般入試（Ⅰ期）	約50名	平成20年12月4日 ～ 平成21年1月27日	平成21年 2月2日	平成21年 2月5日	千葉会場： 東京歯科大学 千葉校舎 大阪会場： 天満研修センター
大学入試センター利用 試験（Ⅰ期）	20名			平成21年 2月10日	
一般入試（Ⅱ期）	約10名	平成21年2月23日 ～ 平成21年3月11日	平成21年 3月14日	平成21年 3月17日	東京歯科大学 水道橋校舎
大学入試センター利用 試験（Ⅱ期）	5名				

### 2. 出願資格

#### 推薦入学（一般公募制）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任を持って推薦する者

1. 平成20年3月高等学校卒業生および平成21年3月高等学校卒業見込の者
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者

#### 学士編入学

4年制大学を卒業した者および平成21年3月卒業見込の者

#### 帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者

1. 外国において、平成19年4月から平成21年3月までに学校教育における12年の課程を修了した者および修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者

### 3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト [外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）] (3) 面接
帰国子女・ 留学生特別選抜	
学士編入学	(1) 小論文・小テスト（英語を含む総合試験） (2) 面接
一般入試（Ⅰ期）	(1) 学力試験（出題範囲は※1参照） (2) 小論文 (3) 面接
一般入試（Ⅱ期）	
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	(1) 大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」の2科目 理 科 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」から Ⅰ期は2科目, Ⅱ期は1科目（※2参照） (2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	

#### ※1 一般入試（Ⅰ期、Ⅱ期）学力試験出題範囲

外国語 （英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。）

数 学 （数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。）

理 科 （物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお出題範囲は下記のとおりとする。）

物理：物Ⅰ、物Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、[(4)原子と原子核]]

化学：化Ⅰ、化Ⅱ

生物：生Ⅰ、生Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く「(3)生物の集団]]

#### ※2 大学入試センター利用試験における理科受験科目数と合否判定

(Ⅰ期) 理科について、3科目を受験した場合は、高得点の科目から2科目を合否判定に使用する。

(Ⅱ期) 理科について、2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

### 4. 学納金（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は「入試要項」をご覧ください —

（入試要項は、大学教務課に資料請求して下さい。web サイトからも請求可能 <http://www.tdc.ac.jp/>）

## 第286回東京歯科大学学会総会

第1日目 平成20年10月18日（土）於：千葉校舎

第2日目 平成20年10月19日（日）於：水道橋校舎血脇記念ホール

\*評議員会・総会は10月18日（土）12：30～13：30に千葉校舎「第1会場」で開催します。

第1日目プログラム 一般講演とポスター発表

第2日目プログラム

10：00～12：00 姉妹校中国西安第四軍医大学口腔医学院による特別講演

座長：金子 讓（東京歯科大学学長）

講演1：Chloride Channels and Tooth Development

Xiaohong Duan Ph. D

（Associate Professor, Department of Oral Biology School of Stomatology）

講演2：Surgical Correction of Severe Cranio-maxillofacial Deformity

Jinlong Zhao MD, PhD

（Associate Professor, Department of Oral & Maxillofacial Surgery School of Stomatology）

13：00～14：00 招待講演「歯科・口腔外科領域における身体表現性障害の診断と治療」

座長：櫻井 薫（東京歯科大学有床義歯補綴学講座教授）

講師：山田和男（東京女子医科大学東医療センター心の医療科准教授）

14：10～17：00 シンポジウム「高齢者の摂食・嚥下障害と医療連携」

座長：石井拓男（東京歯科大学社会歯科学研究室教授）

講師：篠塚光久（市川市開業）

「開業医からみた訪問歯科診療」

講師：井出吉信（東京歯科大学解剖学講座教授）

「摂食・嚥下を理解するための解剖」

講師：石田 瞭（東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・

地域歯科診療支援科科长）

「病院歯科から行いうる医療連携」

講師：新田國夫（国立市医師会会長）

「かかりつけ医からみた摂食・嚥下障害」

詳細は、東京歯科大学学会の機関誌「歯科学報」第108巻第4号（平成20年8月30日発行）に掲載いたしますので、ご供覧ください。

# 東京歯科大学 創立120周年記念事業

## 東京歯科大学金子学長と大山同窓会長との座談会

東京歯科大学は平成22年に創立120周年を迎えます。この節目を期して、大学は、創立120周年記念式典・水道橋へのキャンパスの移転を計画しており、6月号会報に井上理事長・金子学長の記念事業の経緯、構想に関する記事を掲載いたしました。

この対談は稲毛キャンパス水道橋移転に対する会員の声「今、この時期に、なんで、何故」にお答え頂くよう企画いたしました。限られた紙面では、全てをお伝えすることは難しいと思いますが、東京歯科大学の一大事業ですので、今後、シリーズ的に情報をお知らせいたします。

### 出席者：

金子 讓 東京歯科大学学長  
大山萬夫 東京歯科大学同窓会会長  
関 泰忠 東京歯科大学同窓会専務理事

日時：平成20年7月1日（火）14：30～16：30  
場所：東京歯科大学水道橋校舎  
創立120周年記念事業準備室

**大山** 本日はお忙しい中ありがとうございます。早速ですが、東京歯科大学創立120周年記念事業の中核事業として位置付けられております、水道橋への移転計画についてお話を伺いたいと思います。

**金子** よろしく申し上げます。開始に先立ちまして、先般ご逝去された井上理事長をお悼みし、黙祷を捧げたいと思います。

（一同黙祷）

### 【移転計画の理由—受験生確保—】

**関** ではよろしくお願ひいたします。まず水道橋移転計画についてですが、同窓会報第364号(前号)に、本計画についてのご説明をご寄稿頂きました。その中で、本計画の実施を決断するに至った大きな要因は、東京歯科大学の将来を実現するためと述べられています。

**金子** そうですね。では東京歯科大学の将来とは何かというと、教育・研究・診療のいずれの面においても歯科界を先導する、一流と呼ばれる大学を目指すことが歴史ある本学の

使命であると考えています。そのためには人材が大学にとっては一番重要で、教育・研究・診療のいずれを行うにしても、良い人材を育成することが必要です。また、同時に良い資質を持つ受験生の確保が大学の最重要課題の一つに挙げられる理由でもあります。

**大山** 長期的な大学の将来像にも優秀な受験生確保が大きく影響するということですね。では水道橋移転計画と受験生確保の関係はどのようにお考えでしょう。

**金子** 本学を志望する受験生に、「歯科大学・歯学部を志願する上で、最も重視するポイントは」という趣旨でアンケートを取っていますが、最多の35%は「国家試験合格率」を挙げています。2番目になると「授業内容の充実」。これがもう1/3、11%になってしまいます。「歴史と伝統」が10%で、やはり1/3です。「立地条件」という項目も入っていますが、これは5番目と低く、つまり立地条件を本学の志望動機として挙げる受

験生はそれほど多くないんです。

**関** それは、本学志望者は稲毛の立地条件が良いとはあまり思っていないということでしょうか。

**金子** その通りです。大学や受験生に限らず、世間一般的に都心志向という傾向は見て取れると思います。もう一つ読み取れることとして、本学のストロングポイントである高い国家試験合格率は教育活動の成果であり、今後も活動を継続することは当然ですが、現実問題としては学生、引いては受験生のレベルが確保できなければ、その長所を維持することが困難であることが挙げられます。その意味でも、受験生対策としては可能な限りのオプションを揃えておきたいと考えています。

**大山** そのための水道橋移転計画ということでしょうか。

**金子** 大きな理由の一つ、という位置付けです。本学が目標とする、歯科界を先導するという事は、他大学との競争に勝つということでもあります。この他大学というのは歯科

大学や歯学部だけではなく、医学部や文系学部まで含めた全ての大学を指します。18歳人口の減少傾向ははっきりしていますから、その限られた人数を全ての大学で取り合うわけです。

**大山** 確かに最近、歯科医師の収入が少ない、ワーキングプアといった報道もされていますね。

**金子** 一般的にもそういうイメージが定着したといってもよいと思います。こういうものは非常に影響力が大きくて、進路指導や予備校の先生が、歯科大学に行ったらいんじゃないかという勧めを、もうほとんどしなくなったというのが現状です。ですから、歯科だから、医科だからということとは別に、一般大学と同じような感覚で動いていかないと、必ず置き去りにされるという危機感があります。

**関** 具体的に、歯科大学・歯学部の置かれている現状はどうなんですか。

**金子** 例えば、ある歯科大学では今年度110名くらいの募集定員だったわけですが、入学者は40名だけだったそうです。受験生がそれだけしかないということですね。また、別の歯学部では募集定員以上の応募がありました。入学試験の成績で判断した結果、入学者数は募集定員を満たさなかったそうです。当然授業料はその分入りませんが、6年後の国家試験を見据え、お金には代えられないという経営判断を行ったと聞いています。非常に立派な見識だと思います。それぐらい、少子化時代であり、さらに歯科志願者が少なくなっていることがわかります。

**大山** 現状は想像以上に厳しくなっているということですね。受験生確保に各大学が必死になるのも頷けます。では、移転計画の必要性として、他にも大きな理由があればお

聞かせください。

#### 【移転計画の理由—都心の利便性—】

**金子** もう1つは、都心の利便性です。これからの大学は、財務の健全性を確立するという意味においても規模をコンパクトにする必要があります。かつ、その中で高機能でなければ生き残れないと考えています。経費を低く、機能を高くというのを同時に実現するのはなかなか困難ですが、都心の利便性は大きなメリットになると思います。

**関** 大学の財務的な分析をされた結果ということですか。

**金子** そうです。大学のあり方というのは、近年大きく変わってきています。収入面で見ますと、文部科学省の経常費補助金は年々減少しています。医療収入についても国家財政から考えて、当面抑制傾向が続くと思われる。学生の授業料は受験生確保の問題とも関連しますが、現在の景気や、減額する医学部が出てきていることなどを勘案すると、やはり下げざるを得ない状況であると思います。

**大山** 医療収入については我々も実感するところですが、それ以外の収入も減少傾向にあると。

**金子** 減少傾向です。そうすると、健全な財務を維持するためには、別の収入を増やすか、逆に支出を減らすしかありません。増やす方策としては、いわゆる競争的資金の獲得という方法が一つ。また後で述べますが、現在では競争的資金をどれくらい獲得できるかで大学が評価されています。それから大学という組織の強みは知的財産の集積ですから、それを活用するという意味で、大学が研修事業を主催することも考えています。支出を減らすというのは簡単なことではありませんが、先に述べたように規模をコンパクトにすることが前提になると想定しています。

これはあくまで参考ですが、稲毛校舎における修繕や更新にかかる費用を、ある前提条件の下で試算したところ、診療用ユニットや電子カルテ化、稲毛校舎の継続利用をするのであれば必要な耐震診断・補強工事関連等まで含めると、建築物に関連する支出が5年間で61億1,900万円に上るという結果が出ています。

**大山** 規模を縮小するということが、現状の機能を維持していくことが難しいのではありませんか。

**金子** 当然今までに比べると足りない部分も出てくると思います。ですが、例えばアメリカの大学は非常にスタッフが少なくですよ。その代わり、近隣の開業の先生たちが来て臨床を教えるなど、大いに交流があります。東京歯科大学も、将来的には同窓の先生方に頼らざるを得ない。そして、東京歯科には特に頼れる、一線級で活躍している先生がたくさんいらっしゃいますから。そういう先生方に臨床教員になっていただく、大いに臨床教育や臨床指導をしていただく、あるいは非常勤講師として学生教育を担当していただく等、大学と開業の先生方との交流を盛んにすることがより必要です。それには都心の利便性が大きな力になります。

それからもう1つ、大学教員が教育や研究の分野などで順調に実績を上げると、厚労省、文科省、日本歯科医学会、歯科医師会等の公的な委員に指名され、学外で活躍する機会が増えます。これは社会貢献として非常に重要なのですが、会議などは主に都心で開催されますから、現状では行って帰ってくるだけで非常に時間をロスしています。水道橋ならば日本歯科医師会でも歯科医学会でも15分で行けますから、1日が非常に有効に使えます。これから有為な人材であればあるほど、表へ出る機

会が多くなる。それを生かしながらやるということになると、やはり利便性というのが欠かせないと、そう考えています。

**関** 前に学長のお話の中に、これからの文科省の考え方は医学部と歯学部と連携するとかという話があったことを覚えています。

**金子** その通りです。これからの文部行政のキーワードは競争と連携です。どういうことかという、先ほど出ました競争的資金と言うのは、大学教育改革の支援の充実等などいくつかの項目があるのですが、これに沿って大学間で競争させられるんですよ。こういう補助金が出るものはいくつかあって、自然科学、人文科学を含めた全領域が同じ土俵で競争するわけです。例えば本学が平成19年度に獲得した競争的資金としては、科学研究費補助金1億1,130万円、特色 GPL 720万円、現代 GP 2,210万円などがあります。今年度からは北里大学を中心とするグループの一員として、「がんプロフェッショナル養成プラン」にも採択されています。このように、大学同士が連携して一つのプロジェクトを行うことが奨励されています。競争をやりながら、今度は連携して、なお競争させるといふ、こういうやり方です。その連携は歯学部同士であったり、お話の医学部と歯学部であったり、医科系と理工学系の連携すらあります。当然国公立間の枠すら最近ではなくなってきました。

**大山** それをどれくらい獲得できるかが。

**金子** 大学の評価に直結します。これを多く取っていれば取っているところほど、いい大学なんです。そして重要な点は、これらの競争的資金に応募ができないところが、歯科大学の中ではざらなんです。まず応募できない。うちはもう懸命になっ

て、なんとかそれを追いかけているわけですが、単科の歯科大学は連携をなかなか組みづらいのが実際です。それで、教育・研究に関してその連携を行うには、やはり大学が集中している都心が圧倒的に有利であると言えます。

**関** 大学が将来に渡って一流を目指すための人材育成という観点から受験生確保が、また財務の健全性を維持するという観点から高機能・低経費化を実現するための必要条件として都心の利便性が、水道橋移転計画の必要性として挙げられました。

**金子** いずれも背景には人口構成を含む社会情勢の変化があります。

#### 【稲毛への移転の位置付け】

**大山** そういたしますと、昭和56年に行われた稲毛への移転と、稲毛での約27年間はどのように位置付けられるのでしょうか。

**金子** これは、決して誤解しないで頂きたいと思います。現在前述のような理由によって水道橋移転を計画していますが、稲毛への移転や稲毛での成果を否定しているわけでは全くありません。むしろ、27年前に稲毛へ移転したことは、あの時代においては成功だったと思っています。日本の経済が右肩上がりであった時に、同窓の皆様からの多大なる援助も受けながら、施設・設備の整備をし、教育・研究・診療それぞれの面で力をつけてきました。逆に言うと、今までこうして力をつけてきたから移転が実行できる、と言ってもいいんです。これが下降線を迎えてきたときには、もう何もできないでしょう。

**大山** あるところでは、稲毛移転時に出したときの金額に対して、どう理解したらいいのかという声があったとも聞きます。

**金子** やっぱり意義が分かってもらえないと、「ああ、無駄になっ

ちゃったんじゃないか」とか、それは当然出てくる感覚だと思います。ただ、寄付は決して無駄になっていないんです。経済情勢に比例して規模を拡大し、成果も上げてきた。その力を基に、この社会情勢の下で新たな展開をする、そうご理解頂きたいと思います。特に、稲毛では地域に30年間お世話になっていまして、最近では地域との病診連携も急速にいい状況で進んでおり、信頼もしてくれているという中で、何もなくすというわけにはいかないわけです。規模については地域のニーズに合うようシミュレートをしながら検討しますが、口腔外科を主体にした特徴的な医療機関にするのがいいんだろうと考えています。

#### 【移転計画の構想について】

**大山** 水道橋キャンパスの新しい構想について、詳しく聞かせていただけますか。

**金子** これは前号の同窓会報の記事でも触れているのですが、同窓の皆様によくご理解をしてもらうために、いくらでも思っていることを話したいと考えています。ただ、我々が想定している話と、それから今決まっていることとは分けて考えて頂く必要があります。水道橋移転を実施することは法人において機関決定されましたが、その詳細なプランについては今後検討・検証を重ねながら、改めて大学と法人それぞれにおいて意思決定を行っていくつもりです。

**関** まだ細部は決まっていないということでしょうか。

**金子** そうです。例えば、新キャンパスの基本構想として考えている建物は現時点で3つとしていますが、これはまだ流動的です。移転の時期につきましても、一応これから7年の間というふうに想定はしていますが、経済が非常に大きく変わると、



これがそのまま行けるかという話にはなりませんね。

**大山** 設計会社からの図面などは出てきているのでしょうか。

**金子** 建物でも何でも、思想が入ります。大学として、学生教育はこうあるべきだという話があって、その具体策が決まらなと設計できないわけです。そういうものをこれから将来構想策定のための学長諮問部会というのを立ち上げて案を作り、必要なものはそれぞれ段階を踏んで、最後は教授会でそれを認めてもらう、それが大学のコンセンサスになると考えています。

**大山** まだまだこれからなんですね。

**金子** ただもう土台は前からもうお話しをしているように、これからはとにかく高機能。つまり、教育・研究・診療の全てで高いレベル、一流の環境を整えた上で、なおかつ規模はコンパクトにしていくということ、これが基盤です。昨年3月になりますが、現在の大学執行部が3年間の任期を終えるにあたり、現状分析と将来への展望を学務報告という形でまとめています。その中で、大学のランドデザインを、高機能かつ低経費という一つの答えとして提示しています。

**大山** 移転計画の財政的な基盤についてもこれから検討ということでしょうか。

**金子** ある前提条件の下での試算は行っています。約200億円かかるだろうという試算結果が出ていますが、前述のように未確定な面が多いこと、さらに現在の原油に始まる原材料の高騰、建築費の増加など、今後の経済状態が非常に不透明ということがありますので、はっきりとこういう財政計画で行います、と今の時点で言うことは極めて困難です。ただ、将来の不透明さというのはい

つの時代でもあるだろうと。景気がよいと言っても、すぐにまた変わったり。だからいい時を待つということをしていたら、結局は実施できないんだろうと思います。従って重要なのは、その時点のところで借金をしない覚悟なんですよ。です。稲毛の敷地を売却した金額が主な原資になるかと考えています。

**大山** そこが難しいですね。同窓の中にも、大学がまた借金を抱えて、その負担が同窓に回って来るんじゃないとか、いろいろな心配をされている方もいらっしゃるようです。

**金子** もちろん寄付の願いもあります。あるけれども、やはり寄付はその本来の趣旨に則ってですね、強制的に集めるということではありません。無理をして、もうぎりぎりを出して欲しいという話では決してないんですよ。やっぱり東京歯科大学の移転の意義を分かってもらって、次のために、じゃあ自分たちがどうサポートしていけるのかという気持ちでやってもらいたい。それには目的的にしていたほうがわかりやすいでしょうと。その意思が収斂できるころというのは、私はやはり血脇先生だと思ふんですよ。

**関** そうですね。

**金子** 従って移転の計画の中では、今の血脇ホールを新棟に移そうと。そこでもう少し高機能にして、いろいろな企画に貸せる、使えるようにするので、その建築費あるいは設備費。それと東京歯科大学の歴史を示す資料室ですね。これらを合わせた額をご寄付の目標額とするのが、一番わかりやすいのではないかと話です。

**関** 目的がちゃんと明示された方がわかりやすいですね。

**金子** それから、記念事業の一環と

して、記念切手シートを作っています。私はあれを3部作として、毎年製作したいと思っています。もう今1部はできているんですよ。これを、寄付をしてくれた方々に、その都度1年ごとに渡していったほうがいいのか、あるいは1部5000円、3部だと1万5000円で買ってもらった方がいいのか、どちらがいいかなと思っているんですけども。さらに多額寄付の方は新血脇ホールところに名前をちゃんと彫りますよとか、お名前を1人1人、ちゃんと銘板を作りますよとか。いろいろな方法があります。

**大山** 血脇ホールに絞るというのは理解がしやすいし、応募者も目的がはっきりしていていいと思いますよね。そこで入学式、卒業式ができれば理想的じゃないですか。

**金子** それは行う方向で検討しなければいけませんね。外部の方に貸し出すにしても、ある程度のキャパシティがないと。

#### 【創立120周年記念式典等】

**関** では、記念事業の話が出ましたので、創立120周年記念式典等についてもお話が聞ければと思います。

**金子** まず式典・祝賀会については、まず基本的なイメージとしては、100周年の時よりも規模は小さくならうかと思ふ。特に、今般の井上理事長のご逝去がありましたので、追悼的な気持ちも込められた式典とするよう検討を進めております。今まで考えていた方針を多少修正するかもしれません。その他には、記念誌の編纂、本学の歴史DVDの作製、学術講演に関する企画、寄付金部会では先ほど言いましたが新血脇記念ホール(仮称)や本学の歴史を示す資料室の建設に関する寄付の募集、そして歴史的価値がある史料の収集・保存。現在のところはこれらの事業を柱として予定しています。

大山 水道橋移転計画はどのように位置付けられるのでしょうか。

金子 これは本年5月に開催した創立120周年記念事業実行委員会で決定したのですが、本計画は創立120周年記念事業の一環ではあるものの、非常に大きな事業ですので、記念事業の中の一部会から独立させることになりました。

#### 【大学と同窓との関係】

大山 では最後になりますが、大学が同窓に望むことと大学と同窓との関係についてはどのようにお考えか、お聞かせください。

金子 大学が同窓の皆様に望む、と言うよりもお願いしたいことですが、大学の現状を知ってもらいたいというのが一番です。それは東京歯科大学の置かれている現状であり、持っているビジョンであり、行ってきた活動であるわけです。当然我々に情報を発信する義務があるわけで

すが、背負わされている役目というのは歯科大学の中で非常に大きいんです、東京歯科というのは。その歴史の重みというのを、如実に感じます。そういう中で同窓の皆様に理解をして頂き、いろいろな面でご支援をお願いできればと。支援と言っても寄付のような経済的な話だけではなく、働いている人たち、あるいは学生、あるいは大学院生、いろいろな人たちにインセンティブを与えるような様々なご支援ということになるんだろうと思います。そして、大学とは同窓にとって何だと言ったときに、いろいろな意味で学術的な交流もありますけれども、自分が出た大学について人に胸を張って言える。「俺の出た大学は今、立派だ」と。私はこれがやっぱり一番大事だと思っています。そういうお互いの心でつながっているような、大学と同窓の関係になるのが好ましいだろ

うと思うんですね。

大山 確かにそうですね。母校に誇りが持てるというのは自分の拠り所になりますね。

金子 そのためにも、大学が頑張らなければいけない、競争を勝ち抜いて行かなければいけないと、そう考えています。

関 本日はお忙しい中お時間を頂き、ありがとうございました。

金子 ありがとうございます。

#### 【終わりに】

2時間に亘る対談でした。文字数では3万字を数えました。内容を壊さず、限られた紙面でお伝えすることの難しさは理解しております。

今、大学は一大事業を成し遂げようとしております。そのためには同窓の理解と協力が必要です。大学からは引き続き情報提供を続けると聞いております。是非同窓の皆様のご意見をお寄せください。(関)

## 父兄会だより

平成20年度 東京歯科大学父兄会役員名簿		
会長	西宮 寛	
副会長	小鹿 典雄	
〃	長野 恭輔	
〃	岡田 孝枝	
常務理事(庶務)	東郷 幹夫	
〃	深水 千枝子	
常務理事(会計)	三友 和夫	
〃	藤 関 雅嗣	
常務理事(貸与)	佐久間 研次	
常務理事(傷害)	植野 順子	
常務理事(広報)	白田 準	
〃	鈴木 伸宏	
理事	鳩貝 尚志	
〃	高野 一夫	
〃	荒川 幸雄	
〃	秋草 正美	
〃	小林 一公	
〃	齋藤 守隆	
〃	中村 隆	

理事	森田 正純
〃	宮吉 久美
〃	寺本 信三
〃	小山 亨
〃	齋藤 正
〃	川崎 輝子
〃	橋本 東児
監事	上田 祥士
〃	青木 栄夫

#### 父兄会協力委員一覧

北海道	市ノ川 正孝
青森・秋田県	小田嶋 亮
岩手・宮城県	鈴木 篤
山形県	菊地 敦子
福島県	鈴木 隆
茨城県	中澤 昭一
栃木県	菊地 香
群馬県	築瀬 一彦
埼玉県	小谷 隆一
新潟県	吉田 敏男

富山・石川・福井県	野田 修仁
山梨県	小林 正茂
長野県	黒岩 功正
岐阜県	太田 真司
静岡県	喜田 俊男
愛知県	夫馬 孝
三重県	辻 康子
京都府・滋賀・奈良県	丸山 敬司
大阪府・兵庫・和歌山県	四宮 功
鳥取・島根県	三原 秀仁
岡山県	木村 真一
広島・山口県	柏村 清一
徳島・香川県	川上 隆
高知・愛媛県	二宮 利雄
福岡・佐賀県	藤井 久人
長崎・熊本県	中西 信治
大分県	池田 昭雄
宮崎県	大内 泰代
鹿児島・沖縄県	前山 泰

## 父兄会長就任の挨拶



新会長 西 宮 寛

平成20年度、第62代の父兄会会長の役を仰せつかりました西宮 寛と申します。私が父兄会長に推薦された理由は、5年前、私の娘が本学に入学し、石川達也前学長が私の学生時代のクラス主任であった関係もあって、父兄会の皆様からのご推薦により父兄会理事の一人に選出されたことがきっかけと思います。私は、昭和48年卒（78期生）で本学歯科麻酔科の大学院第一期生として中久喜喬現名誉教授のもと、金子 讓現学長に長年にわたり直接ご指導をいただきました。その関係で、いわば大学の代表であります金子学長とは、意志の疎通が親密にできるものと思っております。ところで、昨今の国家試験の難度の高まりにつれ、歯科大学の入学志願者は、より国家試験合格率の高い歯科大学への入学を希望する傾向が強くみられるようです。本学は、幸いにして教職員の並々ならぬ努力によりここ数年の間、全国29ある歯科大学のなかで

も常にトップレベルにあることはご存知のことと思います。全国の歯科大学が国家試験のための予備校と化して行く中、本学は、“歯科医師である前に人間であれ”という、血脇先生の提唱された建学の精神を堅持し、より広い教養と豊かな感性と思いやりのある人格を持った人間育成のための教育をも、千古に徹して行ってほしいものと思っております。そのため、父兄会としては、大学の教務内容にまで立ち入ることはできませんが、学生の学習環境、生活面で建学の精神に沿うように目を配り、善処してゆきたいと考えております。また、再来年度は、本学の創立120年記念ということで、式典を始めとして、種々の事業が企画されるようです。父兄会として、同窓会と協調しながら、お役に立ちたいと今から準備をしておきたいものと考えておりますので、大山 萬夫会長をはじめとする同窓会の皆様方のご協力をお願い致します。

## 会長退任挨拶



前会長 青 木 栄 夫

平成20年3月末、任期満了により父兄会会長を退任致しました。1年という就任期間でしたがこの大役を大過なく終えることができ、東京歯科大学同窓会の皆様の温かいご支援とご協力に感謝いたします。

今年の歯科医師国家試験は例年になく厳しく、合格率7割を下回る68.9%という状況でした。しかしながら大学教職員の皆様の的確な対策と修学指導により、またそれによく応え努力した113期生は、今年も私立歯科大学では総合1位という見事な成績を納めることができました。晴れて我が国で一番最新の歯科医学を学んだ歯科医師の誕生となりました。現在、新卒者は平成18年度より法制化された臨床研修制度に則り、大学病院だけでなく同窓の皆様にご協力をいただき各々の研修施設で研修に励んでおります。

歯科医学教育がかつての保存、補綴といった各科別の「系統的な学問体系」から疾患別、領域別といった形式での国家試験導入により、「統合的な学問体系」に移行しています。従って歯科医学の知識と技能を確実なものとするために、各科目の講義、実習で学習する内容を統合し、基礎系、臨床系科目を関連づけて横断的に理解させるべく教育が様変わりしました。

近年、急激に変化する医療環境のなかで伝統ある東京歯科大学に学び、同窓の一員となった次世代を担う若き後輩に、歯科医師として、同窓としてご助言、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

終りに、同窓会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも掲載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主催 連絡先	外部より 参加可否
学術講演会 平成20年 9月7日(日) 午後2時15分～ 午後3時45分	患者から信頼を得る安全で痛くない 歯科治療のために  伊東 哲先生 (静岡県開業)	グランドホテル浜松 浜松市中区東伊場 1-3-1	東海地域支部連合会 静岡県支部専務理事 松下 茂 TEL 053-464-8055 FAX 053-464-8080	同窓会員
学術講演会 平成20年 10月15日(水)	歯内療法学効率化と精細処置ニッ ケルチタンファイル・マイクロス コブ実習など  中川寛一教授 (東歯大歯内療法学講座)	(株)ヨシダ本社ビル会議室 東京都台東区上野 7-6-9 TEL 03-3845-2971	千代田支部 学術担当 山本雅通 TEL 03-3252-0624	支部会員 歯科関係
学術講演会 平成20年 10月22日(水)	クラウンブリッジの最近の話題 “メタルフリー修復、接着ブリッ ジ……”  佐藤 亨教授 (東歯大クラウンブリッジ 補綴学講座)	東武ホテルレバント東京 東京都墨田区錦糸 1-2-2 TEL 03-5611-5511	深川支部 連絡先 学術担当 中澤 章 TEL・FAX 03-3846-4618	同窓会員
学術講演会 平成20年 11月23日(日) 午後2時～ 3時30分	「口腔機能の社会的評価・認識の 向上を求めて」  川口 充教授 (東歯大薬理学講座)	リーガロイヤルホテル 大阪市北区中之島 5-3-68 TEL 06-6448-1121	近畿地域支部連合会 大阪府支部長 西尾敏生 TEL・FAX 072-223-7588	同窓会員

## 北海道地域支部連合会

平成19年度

通常総会(旭川)を終えて

平成19年9月16日(日)平成19年度  
東京歯科大学同窓会、北海道地域支  
部連合会通常総会が全道から74名  
の同窓が一同に会し、旭川グランド  
ホテルにて開催されました。総会に  
先立ち午後2時より支部長会議、役  
員会が開催され、午後3時からは第  
24回卒業研修会が開催されまし  
た。

旭川支部、渋川義昭先生のご子息  
で、東京歯科大学歯周病講座准教授  
渋川義宏先生のご講演で「歯周病の

新たな展開」と題して、歯周病と  
全身疾患(糖尿病との関わり)、歯  
周再生治療の現状と未来をテーマと  
してお話いただきました。

開会の辞で、旭川支部長佐藤邦典  
先生から『スムーズな進行に努めら  
れて、早めに美味しい酒にありつけ  
るように、ご協力の程よろしくお願  
いします』との挨拶があり、続いて  
自称首席指揮者の島田清純先生のバ  
イオリン演奏で校歌斉唱を行い、物  
故会員5名、4月以降の2名のご冥  
福を祈り黙祷を捧げた後、ご来賓の  
薬師寺 仁先生、渋川義宏先生両名

が紹介され会長挨拶となりました。

薬師寺副学長は、来賓挨拶の中で  
様々な会員の疑問点について大変詳  
細に説明していただきました。『今  
後は、大学と同窓会が本当に一体と  
なっているいろいろなことができる、新  
執行体制を同窓会でもの方でも築いて  
欲しい』とお話がありました。

続いて、感謝状及び記念品の贈呈  
に入り、白寿2名、米寿1名、喜寿  
5名を代表して杉村 孝先生に記念  
品が、前会長の藤森敏昭先生、前函館  
支部長の西川吉博先生、前小樽支部  
長の長谷川修三先生それぞれに感謝  
状が渡されました。議長に柳 清二  
先生、副議長に和田大海先生が選出

され、柳 清二先生からは『東齒の精神である先輩を尊び後輩を慈しむという考えに沿って』ということで、速やかに会務報告（伊藤総務）、本部理事報告（戸田専務）、決算報告（森田会計）、監査報告（松川幹事）がなされ可決承認されました。その他、杉山総務から質問があり、藤森先生からは『私利私欲で行ったことではないので、罪は憎んでも人は憎まないで欲しい』また、長谷川健先生からは『子弟の母校受験』について大学への要望がそれぞれ出されました。

次期総会開催地である、札幌支部支部長松岡敬志先生から『今日ここにいらっしゃる先生は必ず来年札幌にいらしていただけるものと期待しています。よろしく願いいたします』とのご挨拶があり、最後に長谷川副会長の閉会の辞にて通常総会を終了致しました。

6時過ぎからは、懇親会場に場所を移し美味しいローストビーフと赤ワインを味わい、前日の大雨がすっかり上がったフォレスト旭川カントリークラブで開催されたゴルフ大会

の表彰も行われ、お土産には伝統の優佳良織を頂きました。旭川支部の先生方には大変お疲れ様でした。

### 北海道連合会報35発行される

同窓諸君の心あらん人に見せたまは高山紀斎の武士としての姿。

試みに北海道連合会報35号の17ページを開いてみよ。

そこには「紀斎」の武士としての魂を、歴史に睡れるその魂を見ん。

「紀斎」の教育への思い、教育者の原点は、すでに明治維新の前夜にあり。四方に満つ外国軍の前で己の無力を痛感せし心を諸君は熟慮せよ。

市川の真間の丘を歩み、震める空を仰ぎ、手児奈の堂に手を合わせ、古の万葉の歌を聞き、撫ずるがごときに風に向かうがうちに予科への思い、堪えがたき懐かしき感の起こり来るあり。

懐かしき予科の学舎を捉えんとしても、すでにもう痕もなし。

予科より水道橋に連なる校風はまさしく慈母なり。その限りなき永遠を慕う時、源泉は高山紀斎にあると知るべし。



「学舎にしみじみ鳴けり春の蟬」  
創立者高山紀斎を特集した他県にない貴重な会報35号の残部があります。是非一読をお勧めします。ご希望の方は大内迄ご連絡下さい。

〒003-0011

札幌市白石区中央1条7丁目  
白央ビル2F

大内歯科小児歯科クリニック

大内和憲

TEL・FAX (011) 863-6061

(S50年卒 大内和憲 記)



## 東北地域支部連合会

梅雨入り前の清々しい秋田にて平成20年6月21日（土）秋田キャッスルホテルに於いて第45回東北地域支部連合会役員協議会並びに総会が開催されました。一週間前に岩手・宮城内陸地震がありゴルフ大会の開催等心配されましたが無事に開催する事となりました。

総会には64名の会員が出席し、同窓会本部から来賓として大山萬夫会長、柳 清二副会長、岩沼 甫理事、大学からは柳澤孝彰研究科長、山根源之教授、本県から秋田県歯科医師会会長石田 宏先生をお招きして盛大に開催されました。総会は山田耕一郎秋田県副支部長の司会のもと中村 勤秋田県副支部長の開会の辞、高橋昭一連合会会長の挨拶から始まりました。大山萬夫会長からの挨拶では「本部同窓会の謝罪と決意」を送った経緯と健全にして、力強い団結と活力溢れる同窓会として

「変革と発展」を目指して全力をつくす意気込みと大学創立120周年記念祝典の成功に皆様方のご協力とご支援を賜りたいと述べられました。その後、柳澤孝彰研究科長が本学の優れた国家試験合格率と入学に関する状況と水道橋への本学移転の計画を詳しく説明されました。

諸報告の後、オーラルメディシン・口腔外科学講座の山根源之主任教授より「見逃せない口腔粘膜疾患」の演題で講演会が開催されました。日頃見慣れている口腔粘膜ですが、多くの症例を提示して頂きより深く口腔粘膜疾患を理解する事が出来ました。

記念撮影した後、恒例の懇親会を開催しました。鈴木文登秋田県支部理事の司会のもと高橋昭一連合会会長の歓迎の挨拶から始まり、秋田ならではの郷土料理、海の幸、山の幸に地酒、民謡に酔いしれ時間が過ぎ

るのも忘れる程でした。全員で校歌斉唱し山内 静前秋田県支部長の閉会の辞でいったん幕が閉じました。その後は地元の歓楽街「川反」に場所を移し、参加された方は秋田美人と共に久方の友と楽しい時間を過ごされた事と思います。

翌日は晴天のもと秋田太平山カントリークラブにおいてゴルフ大会が開催され、福島県支部の渡辺重視先生がベストグロ優勝されました。

次回は福島県の担当で平成21年5月30日（土）開催予定です。

（清水 隆夫 記）



## 四国地域支部連合会

### 徳島県支部担当

平成20年5月10日（土）ホテル・グランドパレス徳島にて、「四国地域支部連合会総会」が開催されました。来賓に同窓会副会長の江崎梅太郎先生、同窓会理事の久保田晃先生、学長の金子 譲先生、インプラント科教授の矢島安朝先生をお迎えいたしました。

午後2時30分より総会が開催され、校歌斉唱、物故会員への黙祷の後、江崎梅太郎先生より同窓会本部

の近況報告、久保田 晃先生による挨拶ならびに愛知県支部のホームページ等の広報の紹介がありました。

引き続き、金子 譲学長より「大学水道橋移転について」の説明が1時間にわたり行われました。

最後に次期開催当番県である香川県支部支部長の藤本 清先生の挨拶の後、総会を閉会いたしました。

午後4時30分より矢島安朝教授に「インプラントの現実と幻想」の演

題で、千葉病院インプラント科の臨床、最近のトピックス等を講演いただきました。

記念写真撮影をはさみ、午後6時30分より、同ホテルにて懇親会が行われました。懇親会では、徳島県歯科医師会会長の和田明人先生をお迎えし、和田先生の挨拶の後、猪子寿一先生のご発声により、乾杯が行われました。

和気藹々とした雰囲気の中、時間となり、無事総会、学術講演会を終了いたしました。

（益井孝文 記）



## 九州地域支部連合会

### 支部長会

6月21日（土）午後5時より福岡市のホテルオークラ福岡にて、九州各県の支部長会を開催しました。

当日は数日来的大雨のため、JRは熊本以南が不通となり鹿児島県の内山支部長は欠席され、又高速道路も八代～えびの付近が通行止めとなったため、宮崎から車の濱田九州地域理事と清水支部長は7時間（通

常3～4時間）かかって福岡に到着されるという、生憎の支部長会となりました。

来賓として同窓会本部より江崎梅太郎副会長、濱田孝一理事に出席していただきましたが、先づ主催県の石田雅男福岡県支部長が10月の九州歯科医学大会に合わせて開催する、九地連同窓会総会への各県からの多数の出席をお願い致しました。

次いで江崎副会長より平成22年に予定されている大学の創立120周年事業への同窓会の係わり、特に水道橋移転の件や同窓会名簿作成、共済金についてなどの説明があり、濱田理事からは九州地区同窓会支部間のネットワーク構築についてのお話がありました。

その後各県支部の現況報告や協議事項の検討がなされ、最後に福岡県の廣田 稔前支部長より10月の九地連総会の概要の説明で閉会となりま

したが、会場を同ホテルの地ビールレストランに移動しての懇親会の最中に宮崎県の清水先生が無事到着、お疲れ様でした。締めは中洲での二次会でした。



九州地域支部連合会総会  
10月18日（土）午後6時

ホテル オークラ福岡  
(永江健一 記)



## 秋 田 県 支 部

平成20年5月17日(土)午後4時より秋田キャッスルホテルに於いて19名の支部会員出席のもと19年度支部総会が開催されました。今回の支部総会は本県が東北地域支部連合会総会の開催県となっているため同窓会本部からの来賓は何方もお呼び致しませんでした。

総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞、物故会員の黙祷に続き高橋昭一支部長が挨拶され、支部会員のさら

なる協力と団結について述べられました。その後、会計報告やその承認など順調に行われました。任期満了にともなう支部長および監事の選挙の議事については太田 晃顧問の推薦により高橋昭一現支部長が満場一致で再任されました。3期目となりまた東北地域支部連合会会長を勤めるにあたりさらなる意欲を会員の皆様にお話されました。監事には支部長の推薦により有明 一先生が選出

され、また奈良周彦先生が歴任する事となり2名の監事が決まりました。

記念写真撮影の後、駒橋典夫顧問の乾杯のもと懇親会が開宴しました。今回も恒例となっている奥羽大学歯学部同窓会の先生2名、松本歯科大学同窓会の先生3名の出席があり同窓会間の交流を深めました。本支部は女性会員も多く、華やかに和気藹々とした雰囲気の中、終始和やかに時間が過ぎました。

(清水隆夫 記)





## 福島県支部

平成20年5月31日(土)午後1時より会津東山温泉「御宿 東鳳」にて東京歯科大学同窓会福島県支部総会が開催された。

渡邊重視専務理事の司会のもと中村秀勝副支部長による開会の言葉にはじまり、物故会員への忌慰・黙祷、椎木一雄支部長による支部長挨拶があった。さらに来賓の大山萬夫同窓会会長により同窓会の近況について詳しい説明があり、井出吉信副学長の挨拶があった。議長には小汲喜郎先生が選出され、各報告・議案は慎重審議のうえ認証された。役員改選では、本年も支部長に椎木一雄先生が推薦され、支部長をはじめ他の役員の方々も今までと同じ先生方をお願いして継続して行くことが満場一致で認証された。総会は小汲三代太副支部長の閉会の辞にて終了

した。

引き続き午後3時より学術講演会が開催された。井出吉信副学長により大学の現況報告・創立120周年記念式典についての説明があり、その後「摂食・嚥下障害を理解するための解剖学」について講演がなされた。貴重な資料を用い、摂食に関わる筋肉・神経についてユーモラスに説明した講演は我々をあっというまに引き込み、はなさないまま時間が過ぎ終了した。

その後同所にて午後5時より記念撮影・午後6時より懇親会がおこなわれた。懇親会では売れっ子の芸妓さんの舞いや利き酒大会、ビンゴゲームなどをはさんで盛り上がり楽しいひとときを過ごした。さらに2次会にうつり深夜になるまで親睦を深めあった。

翌日は晴天に恵まれ新緑が美しいなか、ボナリ高原ゴルフクラブにおいてゴルフコンペが開催され佐藤正行先生が優勝した。

順位	参加者氏名	GROSS	NET
1	佐藤 正行	90	69.6
2	武藤 俊介	93	70.2
3	国分 敏行	79	71.8
4	渡辺 琢也	88	72.4
5	松本 寛志	81	72.6
6	佐藤 正矢	79	73
7	今村 一路	89	73.4
8	渡邊洋二郎	92	74
9	秋元 英典	92	75.2
10	鈴木 尚	98	75.2

(北見知広 記)



## 千葉の味

### 千葉県

私の故郷銚子は全国の漁港水揚げ番付で、しばしば第1位になっており、黒潮・親潮の合流点であるため、豊富な魚種に恵まれています。鯛は天麩羅を塩で食べるのが旨く、また大型の入梅鯛の塩焼きもグッドです。鰯は漁師料理のなめろうがベストで、晩酌時は酒のつまみにした後で、パリパリの海苔で手巻き鮓で仕上げるのが好みます。サンマは刺身と塩焼きが定番ですが、大量に食べるには、酢漬けと、梅干と炊いた佃煮が良いようです。鰹は生だと血合いのなめろうとトロ鰹の刺身を3切れほど食べれば十分。あとは、ハラスの塩焼きと、一晚漬けた竜田揚げが旨い。金目鯛は独特の臭いが嫌で、なめろうとシャブシャブなら何とか食べますが、刺身と煮付けは御免です。金目鯛の2倍の値段のアコウ鯛は、刺身、煮つけ、味噌漬け、シャブシャブとどう食べても最高に旨い。ヒラメはアライと刺身は上品な甘さを味わうには不向きで、大振りの切り身をフライがベスト。次いで天麩羅、唐揚、4キロ級のエンガワの煮つけと、加熱調理した旨さに生食は到底及びません。

ところで、この世で最も美味しい魚はなんですか？ 世界の魚類学者によると、北米で産するユーラカンという、蠟質たっぷりの魚だそうです。銚子沖にもこれに肉質がそっくりのアブラソコムツという魚がいます。刺身があまりに旨くて、3切れでやめないと危ないというのを5切れも食べて、蠟分が消化管内で閉塞し、医者に駆け込んだ漁師の話を

聞きます。今度獲れたら持って来いと頼んでありますが、まだ届きません。味見が非常に楽しみです。

では、千葉の魚を旨く食べさせる店を2軒紹介します。1軒目は四街道市の「銚し八藤田」で、同窓の釣名人M君が幻の超高級魚・アラを2回食べさせてくれた素晴らしい店です。写真上左は、大原港で揚がったおばけサザエと、石鯛の刺身です(043-424-8071)。2軒目は市川市の手打ちそばの「鴨や天童」で、写

真上右はお造り7種、写真下は特大の高級魚・ノドグロの塩焼きです。写真撮影の前に待ちきれずに箸をつけた方が出ました(047-324-7629)。番外として、千葉までは遠くて脚を延ばせない方のために、東京駅近くの魚料理屋を1軒。ヒラメの唐揚を千円で出しますが良心的だと感じましたので、トライしても面白いかと思います(「天海」・03-3271-6538)。旨い食材で菌科界を取り巻く重苦しい雰囲気は少しでも吹き払って戴ければ幸いと存じます。

(昭和58年卒 野平倍章 記)



# クラス会だより

## クラス会開催日程

いとし会 (昭和24年卒)	とき	平成20年11月15日 (土)
	ところ	東京銀座・南蛮1934 (予定)
一期会 (昭和28年卒)	とき	平成20年10月12日 (日) 午後1時
	ところ	青山 浅田
八紫会 (昭和35年卒)	とき	平成20年10月11日 (土) ~13日 (月)
	総会	平成20年10月11日 (土) 6:30より
	ところ	萩・津和野・松江方面
久喜会 (昭和36年卒)	とき	平成20年11月2日 (日) 午後4時~
	ところ	水道橋・東京ドームホテル42F ペガサス
富巳会 (昭和40年卒)	とき	平成20年10月12日 (日) 午後5時
	ところ	新宿京王プラザホテル
踏志会 (昭和41年卒)	とき	平成20年11月1日 (土)・2日 (日)
	ところ	広島県および愛媛県
八実会 (昭和53年卒)	とき	平成20年10月12日 (日)
	ところ	福岡市
翔蜻会 (昭和55年卒)	とき	平成20年11月2日 (日) 午後5時から
	ところ	飯田橋・ホテルメトロポリタンエドモント
新葉会 (昭和63年卒)	とき	平成20年9月20日 (土) 午後5時30分~
	ところ	水道橋・東京ドームホテル42F シリウス
平成会 (平成1年卒)	とき	平成20年9月14日 (日)
	ところ	血脇記念ホール・ 東京ドームホテル42F シリウス

## 五十一期会

昭和20年9月~昭和21年10月卒業

平成20年6月1日(日)、クラス会場の東京グリーンホテルに於て、午後3時より幹事会を開催し、幹事諸公の意見として、自分自身の体調に自信がなくなり、クラス会も今回限りで、残念ながら今後は開催しないことになりました。以前は、地方々々で在住の方々が、クラス会を企画立案されて、日本全国で行ってきたわけです。今日は大変な日本晴

れ、集っていただく級友のため天候の神様も協力していただいた様な気分でした。振り返って思えば、昭和17年4月入学以来日本は戦争状態でした。情緒豊かな我々の青春時代には、ほど遠い学生生活でした。日本敗戦の色濃くなり、クラスメイトの多くは海軍歯科軍医の道に進みましました。東京に残った者は、将来軍医が足りなくなる思わくがあったの

か、慈恵と慶応大学に通いましたね。そして敗戦、9月東京歯科卒業ということになり、あわただしい中、急転直下、目標も定まらずチリヂリになりました。我々としては、このクラス会開催で級友と会うのが大変楽しみになったわけです。クラス会を振り返って見ますと、第一回が昭和21年11月2日、熱海大月館で開催され、第二回は箱根強羅で青年? 歯科医として将来の希望に充ちて、昭和22年10月26日行われた記録

があります。最近、毎年クラス会を行っていますので、途中記録がなされていない時もあり、かなりの回数開催してきております。これからは2人でも3人でも声をかけ合って人生を豊かなものにして下さい。

「時」の歩みは三重である。未来はためらいつつ近づき、現在は矢のように速く飛び去り、過去は永久に静かに立っている。

まことに如何ともし難く、この一年下記の級友を失いました。ご冥福を祈ります。

高橋庄二郎君

平成19年8月9日逝去

角 三郎君

平成19年9月8日逝去

安部英之助君

平成20年3月28日逝去

岡 義治君

平成20年5月1日逝去

### クラス会幹事

桜井、酒井、河村、海野、正木  
特に、51期会に対して、正木幹事の多大な努力に対して、感謝申し上げます。(代表幹事 早川 記)



## 水 公 会

昭和56年卒

平成20年7月12日(土)東京のアルカディア市ヶ谷にて2年ぶりに水公会総会及び懇親会が行われました。

来賓は、西村先生・中山先生・

薬師寺先生・柳澤先生、出席会員約30名で楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

今年の歯科医師国試合格率は全国

平均68%で、幸い東歯大は約90%の高い合格率を誇っていますが、我々、水公会は当時の時代も良く100%合格でした。それゆえ今も皆、仲良く集まれるのではないかと思います。



### 木俣明子会員のコメント

「暑い中、皆さん遠くからご苦労さまでした。懐かしいお顔もあって学生の頃を思い出しました。」

### 山倉久史会員のコメント

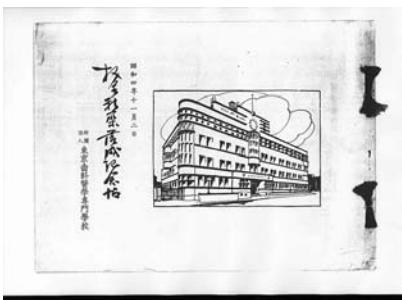
「大学が千葉から水道橋に移転することに少なからず驚いています。いくら老朽化したとはいえ、外見は立派そのものです。それにも増して千葉県内の歯科医療の中核病院が突然大幅縮小してしまうのは不安です。

高次医療機能を残して欲しいところ  
です。」

では皆さん、またお会いしましょ  
う。お元気で。

(杉村守彦 記)

### 一口メモ



## 水道橋校舎

高山紀齋先生の義弟・森山松之助氏設計による水道橋校舎が完成したのは昭和4年。沢山の来賓を迎えて中央ホールでの落成式において配られたのが、この写真の冊子である。表紙には、地上4階地下1階の新校舎のイラストが描かれている。白山通りに面した校舎正面上部には大きな時計がある。時代は下って、昭和56年に千葉校舎が完成し、11月に竣工式、祝賀会が行われ、昭和57年4月から、新1年生を迎えた。その間も水道橋校舎は、衛生士学校と病院は残って機能していた。60年10月、白山通りの向かい側から校舎を見ると、水道橋校舎のシンボルのごとき大時計が、12時の位置で、長針と短針が固定され動きを止めていた。ちょうどその半年後に水道橋校舎の解体が始まった。この水道橋校舎の落成は創立40周年、千葉に移ったのが90周年、そして水道橋に戻るのが120周年。母校が、また新たな時を刻んでいくのを願ってやまない。

## 同窓会関係者を詐称する商法に御用心

最近、東京歯科大学同窓会役員や同窓会関係者のように装って、写真集・書籍等売りつける商法が同窓会に報告されています。電話では同窓会報を読んでいるかのような会話をしたり、歴代の役職者の氏名を親しげに話したりして信用させることもあるようです。くれぐれもご注意ください。

同窓会から物品の販売でお電話することはありません。怪しいと思った時には同窓会本部までご連絡下さい。

# OB会・グループ・サークルだより

## 平成20年度サッカー部 OB 総会

平成20年6月7日神田一橋の如水会館にて、平成20年度サッカー部OB総会が開催されました。サッカー部は創部より約90年を経過する伝統あるクラブです。しかし、OB総会が毎年開催されるようになったのは、山下敏明前会長の指導力によりOB会組織が再建された、7年程前からです。また、臼田 準会長の発案で、数年前よりサッカー部OBによる学術講演会も併せて行い、親睦だけでなく学術にも近年力を入れています。今回は、井澤常泰先生(S57年卒、東京医科歯科大学臨床教授)による「マイクロスコープを使用した、歯内療法」をテーマに講演を頂きました。多くの顕微鏡像と臨床ビデオを交えながらの素晴らしい講演で、最先端の歯内療法を

学ぶことが出来ました。当日は、東歯学会、補綴学会等と日程が重なり20名程と例年に比べ少し寂しい人数ではありましたが、少人数のメリットを生かし各自の近況報告や、今後のOB会のありかたなどなど、また井澤先生へのクラブの仲間ならではの忌憚りの無い質問が飛び交

い、2次会、3次会へと多いに盛り上がりました。次回の学術講演を、押見 一先生が快く引き受けて下さいました。来年度は日程など早めに連絡いたしますので、多くのOB各位の出席をお待ちしています。

(今村昭二郎 記)



# すいどうばし

## 今、同窓会は

柳 清 二（昭和38年卒）

寒く長いトンネルを抜けるとそこは春の息吹を感じる東京であった。『雪国』の序文にも似た感覚を覚えつつ、東京歯科大学本部同窓会、懐かしき水道橋へ出向し、早6ヵ月が過ぎました。

昨年末に突然「本部同窓会の協力を願いたい」とのお電話を頂き、驚きと不安の入り交じる中、同窓会は『一生の友の会である』と、自らを奮い立たせお引き受けする事を決意しました。すぐに過去の同窓会会報に目を通し、自分に与えられた職務は何であるか、これから何をすべきかを模索し、現在理事会等会務に励んでおります。

「本部同窓会では、どのような仕事をしているのですか？」と、よく同窓の先生方に聞かれます。

私もこれまで地域支部には関わって参りましたが、本部に関してはほとんど存じませんでしたので、ここで会務の執行について少しばかりご報告をさせていただきます。

本部同窓会では、理事会または常任理事会が毎月開催され、同窓会・大学・各部委員会からの問題提起を受け、協議事項や承認の件、継続事項等の検討を行っております。

HPや会報等でも報告されていますが、役員先生は1時間も前に集合され、千里万考の精神をもって会務追究に余念なく努力されております。

日本歯科医師会へ役員、代議員として出向されている同窓の先生方との懇談会は今日の歯科会を穿鑿する

うえで大変大事な会合であります。特に大山新会長におかれましては、以上の諸事項を携えて大学・衛生士学校の行事への出席や、新生同窓会の職務として全国の地域支部連合会、支部会への出席等、ハードなスケジュールをこなされておられます。

現在、同窓会本部情報部委員会では、総務部、会計部、渉外部、学術部、広報部、厚生部、保険部委員会の活動並びに大学からの情報をリアルタイムで提供しておりますので是非HPを開いてみて下さい。

早くも次年度の予算の編成の時期ですが、各委員会の担当常任理事が中心となり、活発に活動をされております。幾多の問題とされる懸案については随時十分な検討を行い、11月に開催される評議員会、定期総会での解決を仰ぐべく鋭意努力しております。

同窓会本部へのご質問も多数寄せられております。本部では理事会で全員の意見を傾聴し、質問を大切に推考しておりますが、難題においては年高の経験論者を以って善導をお願いし解決に努めております。

ヨハネ伝福音書第一章「はじめにことばあり。言はことば神かみと偕ともにあり。言はことば神かみなりき。一万よろずのものこれ之よに因よりて成なり、成なたるものこれ之よに因よらで成ならざるはなし」

この章の意味する所は、言葉は大変重要なものであり人の信頼を得るためには真心を持って誠の話をすることが大切であるという事です。質問

の是非を問う事は、まさに真心を持って真意を伝えることだと私は考えております。

同窓会と大学は「車の両輪」等と色々な表現がされています。現在、東京歯科大学は水道橋校舎に教育棟、研究棟、病院施設を移設する事が決定しています。同窓の皆様には色々な思いや賛否もあろうかと存じます。しかしながら、大学法人が決定した以上、同窓会として、何をどの様にして協力同心とするかを、今後の大きな議題として思考努力する事が必要であります。

同窓会不要論すら散見する今日、「新生大山丸」は静かに船出しましたが、行く先々に早くも高波や岸壁が立ちはだかっています。先生方にはどうか、同窓会と大学が一枚岩になって難関を打ち砕く力を結集し、相互扶助の精神をもって突き進んで行く、という同窓会本部理事会の意を汲んで頂き、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。

歯科医としての今日の地位を築いて頂いた母校に同窓会会員として血脇イズムを思い起して共に発展のため努力しようではありませんか。

多逢勝因という言葉があるように、本部同窓会は会長を中心に、我々役員も、股肱之臣として頑張る決意です。同窓の先生方には今後の識見を何卒宜しくお願い申し上げます。





# 庶務日誌

7月

1) 理事会

7月12日(土) 第4回理事会

2) 委員会

7月4日(金) 学術部委員会 (プログラム委員会)

4日(金) 保険部委員会

7日(月) 学術部委員会 (運営委員会)

8日(火) 学術部委員会 (将来像検討委員会)

9日(水) 学術部委員会 (プログラム委員会)

11日(金) 広報部委員会 (会報編集)

15日(火) 学術部委員会 (将来像検討委員会)

15日(火) 会則等検討委員会

17日(木) ゴルフ大会実行委員会

18日(金) 学術部委員会 (運営委員会)

23日(水) 情報部委員会

28日(月) 学術部委員会 (企画会議)

29日(火) 保険部委員会

31日(木) 学術部委員会 (研修委員会)

3) 出張

7月5日(土) 十勝支部学術講演会 講師・武田孝之先生 (母校臨床教授)

6日(日) 埼玉県支部総会 大山会長出席  
学術講演会 講師・田崎雅和教授(母校)

12日(土) 岡山県支部総会  
学術講演会 講師・福田謙一准教授(母校)

12日(土) 群馬県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・一戸達也教授(母校)

13日(日) 愛知県支部学術講演会 講師・中川種明先生 (慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教授)

16日(水) 東京地域支部連合会学術講演会 講

師・高柳篤史先生 (埼玉県開業)

24日(水) 練馬支部学術講演会 講師・角田正健教授 (母校)

25日(金) 芝支部懇親会 大山会長出席

26日(土) 鳥取県支部総会 関専務理事出席  
学術講演会 講師・阿部伸一准教授 (母校)

4) 事業

7月6日(日) 卒後研修セミナー [実技セミナー (No.4 新素材, 歯冠修復の新たな潮流~メタルフリー修復の実際とその基本手技~)]

26日(土) 第24回全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会

8月

1) 委員会

8月1日(金) 学年代表連絡会 (仮)

3日(日) 学術部委員会 (全体委員会)

19日(火) 学術部委員会 (運営委員会)

20日(水) 学術部委員会 (運営委員会)

22日(金) 会則等検討委員会

25日(月) 広報部委員会 (会報企画)

26日(火) 学術部委員会 (企画会議)

26日(火) 保険部委員会

2) 出張

8月9日(土) 宮崎県支部学術講演会 講師・柴原孝彦教授 (母校)

23日(土) 北海道地域支部連合会総会 (札幌支部担当) 大山会長, 柳副会長, 戸田理事出席

30日(土) 広島県支部総会 江崎副会長出席  
学術講演会 講師・中川寛一教授(母校)

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。 (敬称略・届出順)

●昭 30 卒	小 守 浩 (77歳)	20. 5. 27
神奈川県湘南支部	〒253-0024 茅ヶ崎市平和町12-4	
●昭 22 卒	山 清 (83歳)	20. 5. 31
日本橋支部	〒164-0003 中野区東中野3-3-8	

●昭 16.12 卒 江戸川支部	田口 芳 治 (87歳) 〒413-0027 熱海市紅葉が丘町9-22	20. 6. 7
●昭 12 卒 横浜北部支部	榊原悠紀田郎 (92歳) 〒222-0012 横浜市港北区富士塚1-11-12	20. 6. 10
●昭 27 卒 高知県支部	横 矢 重 彦 (82歳) 〒780-8012 高知市天神町6-8	20. 6. 10
●昭 16.12 卒 愛知県支部	金 山 政一郎 (87歳) 〒444-0226 岡崎市中島町上町102-1	20. 6. 14
●昭 15 卒 武蔵野支部	水村 七五三彦 (90歳) 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-33-23	20. 6. 16
●昭 24 卒 千葉県支部	井 上 裕 (80歳) 〒285-0837 佐倉市王子台4-22-3	20. 6. 22
●昭 31 卒 広島県支部	佐々木 毅 (79歳) 〒730-0048 広島市中区竹屋町1-5	20. 6. 21
●昭 47 卒 岡山県支部	伊 木 信太郎 (65歳) 〒700-0803 岡山市北方1-1-14	20. 6. 26
●昭 46 卒 川崎支部	内 山 和 彦 (61歳) 〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘4-4-37	20. 6. 28
●昭 22 卒 新潟県支部	渡 辺 正 男 (82歳) 〒959-1373 加茂市松坂町2-24	20. 6. 29
●昭 18.9 卒 西多摩支部	本 間 章 介 (85歳) 〒198-0036 青梅市河辺町9-9-3	20. 6. 22
●昭 27 卒 宮崎県支部	本 田 直 勝 (85歳) 〒884-0003 児湯郡高鍋町南高鍋550	20. 4. 28
●昭 12 卒 三重県支部	松 崎 邦 夫 (94歳) 〒516-0072 伊勢市宮後3-1-22	20. 7. 6
●昭 48 卒 鹿児島県支部	有 木 光 雄 (59歳) 〒897-0002 南さつま市加世田武田17825-1	20. 7. 9
●昭 38 卒	林 東 二 (67歳)	18.12. 9
●平 4 卒 旭川支部	北 恭 子 (40歳) 〒078-8330 旭川市宮下通23丁目1974	20. 7. 10
●昭 20.9 卒 静岡県支部	小野田 茂 里 (84歳) 〒436-0052 掛川市柳町58-2	20. 7. 11
●昭 28 卒 葛飾支部	佐 藤 博 (80歳) 〒124-0024 葛飾区新小岩4-35-20	20. 7. 12
●昭 22 卒 川崎支部	小 西 保 (83歳) 〒214-0022 川崎市多摩区堰1-22-1-78	20. 7. 3
●昭 24 卒 世田谷支部	高 野 雄 幸 (80歳) 〒155-0032 世田谷区代沢2-36-24	20. 7. 11
●昭 26 卒 千葉県支部	高 木 照 雄 (80歳) 〒272-0815 市川市北方2-14-10	20. 7. 19
●昭 47 卒	黒 田 直 正 (60歳)	20. 7. 18
●昭 37 卒 北多摩支部	興 津 健 (78歳) 〒196-0003 昭島市松原町2-3-24-310	20. 7. 24
●昭 50 卒 新潟県支部	堀 田 多可良 (59歳) 〒940-0064 長岡市殿町2-3-12	20. 7. 25
●昭 27 卒 北多摩支部	矢 島 中 (82歳) 〒183-0022 府中市宮西町4-11-1	20. 8. 1
●昭 15 卒 千葉県支部	館 脇 晴 三 (89歳) 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1-10-3	20. 8. 5
●昭 11 卒 大阪府支部	中 村 光 男 (96歳) 〒560-0021 豊中市本町9-6-2	20. 7. 28
●平 5 卒 世田谷支部	田 中 慎一郎 (41歳) 〒156-0055 世田谷区舟橋1-49-11	20. 8. 2
●昭 46 卒 玉川支部	鈴 木 眞 (61歳) 〒158-0085 世田谷区玉川田園調布1-11-14	20. 8. 9
●昭 36 卒 釧路支部	服 部 幹 夫 (72歳) 〒085-0058 釧路市愛国東4-12-9	20. 7. 28

## 故増田 豊君を偲ぶ

いそむ会（昭和26年卒）



君が逝っては  
や1年が経つ。  
昨年の8月23日  
告別式に出席の  
ため、空路松山  
に向かう機上に  
て、司馬遼太郎

の「坂上の雲」を手にしていた。この物語には3人の人物が登場する。1人は古い短詩型に新風を吹き込んだ中興の祖、正岡子規で、あとの2人は伊予松山の人、秋山好古、秋山真之の兄弟である。私はこの小説を読みながら、時に真之の人生に関心を持ち、増田兄の人生と重ね合わせ感慨に耽った。それは真之は海軍兵学校に入り、後に海軍軍人として新海軍確立に彼の才能を遺憾無く発揮したが、増田兄は東京歯科専門学校に入校、卒業後は道後温泉の入口に立派な診療所を設けた。その道は違ったが、子規が謳った「春や昔十五万石の城下かな」伊予の首邑松

山に育った気質に通じるものがあるように思えたのである。

平成18年7月、第55回いそむ会を帝国ホテルで行なったが、その時の彼は、喘息・肺気腫に悩まされながらも煙草を止めようとはしなかった。如何にも苦しそうだったが、年1回旧友との再会を本当に喜んでくれた。又翌年のいそむ会を楽しみにしていると約して松山に帰っていった。

次の年（平成19年）6月27、28日第56回いそむ会を伊豆・大滝温泉開催にも来てくれた彼は、1年前と比べて如何にも体調に異変を来しているのに密かに驚かされた。それでも伊豆の一夜を共に昔を偲んで夜の更けるのを忘れ語り合った。当時、補綴の大家であった矢崎正方先生の東中野のお宅に数人居候を決めこみ、彼はこれを称して「矢崎学校」と言い、矢崎先生御夫妻は慈しみの温顔をもって多感な若者たちに接して下

さった。卒業後、松山にての同窓会の時、矢崎先生がご出席されて冒頭挨拶をされたが、末席に待てる彼を眼に止めて、なにをおいても彼の末席に早速に来られ、彼の手をとり涙を流されて再会を喜ばれた事など、四方山話の尽きない一時であった。

後に東京歯科昭和54年卒のご子息・健先生からお聞きしたところ、いそむ会から帰られて、7月より息切れ、倦怠感が強くなり愛媛大に受診、検査の結果、肺癌・腰骨・胸骨・および脳へ転移と診断され、四国ガンセンターに転医された由。症状は一進一退を繰り返し、8月21日午前10時39分永眠されたとのことである。

ここに君と幽名界を異にすることになったが、折に触れ、時に因り、君を慕い君を語り継ぐことになると思う。（貝塚雅信 記）

## 宮島 靖君を悼む

嶺驥会（昭和30年卒）



宮島 靖君。  
私が東歯大に入  
学して得た喜び  
の一つは、彼と  
出会い、友人に  
なったことだと  
今切に思ってい

る。

私が彼を敬愛した理由は、彼から滲み出る全人格的な豊かさにある。端的に表現出来ないが、言ってみれば、彼は古武士の様な物静かな威厳を備えていた。物事は的確に判断す

るが、それを押し付けがましく主張することはない。そして、何よりも深い愛情を秘めて礼節を守っていた。いやらしい自己主張や、誇張、計算、ハツタリは微塵もない。豊かな家庭に伸び伸びと育った人だなあーと感じさせる人柄であった。

旅行好きだった彼は、色変わりの数着のタキシードを新調持参して飛鳥や外国船での長旅（クルージング）を楽しむ洒落者でもあった。

去る5月29日の彼の葬儀に、私は、次のような弔電を送った。

最愛の友、クラスメートの人気者と同時にみんなの信頼と尊敬を一身に集っていた豪放磊落な宮島 靖君。君の訃報を聞き、深い悲しみに襲われています。ご家族や友人を愛し、何事にもひたむきだった君。ご遺族皆様のご心中をお察し申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。君は、素晴らしい奥様とご家族に恵まれ、十分人生を楽しまれましたよね。安らかにお休み下さい。さようなら  
合掌

（倉橋良彰 記）

## 半人前



6月27日に小守浩君が亡くなった。昭和23年に予科に入学して早々に「らくがき」というガリ版摺り

クラス雑誌を作りました。それが原点になり今でも旅行会にまで発展し現在まで続いています。

昭和63年6月に須佐美康治君が『楽苦我記会写真集』を出版しましたが、その中の随想と近況欄で彼が「あしたってなんだろう」という一文を書いており、あらためてその随想を今読み返してみた。やはり、彼はあの若き日から既に自分の歩むべき人生を「上を向いて歩こうよ」と

若い頃はリーダー的存在でありアイデアマン、茅ヶ崎で開業してからも地域の存在感のある歯科医師として活躍をしていた。

だがそんな彼に肉体を蝕んだ「悪性腫瘍」との対峙、予後、寛解、そして退院後の「なにごとにも半人前の生活を」との専門医からのアドバイスを忠実に守り、残りの「半人前」を趣味の時間に当て、土に親しみ、土を耕し種をまく、そして小さな芽が出て成長し、それが「いとおしい」と書いてある。本当は誰もが不治の病に襲われるとそこまでを楽しんでいる状態ではないのに。でも彼は不思議な摂理に思えると土、種、小さな芽が始まりだったのだ。その後は土の原点に戻り無農薬、有

## 嶺驥会（昭和30年卒）

機農法。そして陶芸から「茶」そのうちに「利休」の理念に興味を持ち始める。なんと小守君は積極的に生きていられ続けられたのだろう。

最後に彼は「ぼくは三ヶ月に一回検査に行くから月単位で生きているのだ」という文章と、それに関連し「明日に何があるか」という最後の結びの言葉が今でも忘れられない。

息子二人は同業に、娘は女医でそれぞれ活躍しています。ご冥福をお祈り申し上げます。

この写真は平成9年6月伊勢志摩に旅行した際 Leica M6 F2 90mmズミクロンで撮影したものです

（足代弘文 記）

## 眞榮田義仁氏を偲んで



氏は（故）父上、ご子息共々同窓で熱烈な母校ファンでした。歯士会の総会には皆勤状態でしたし、地元

船橋東歯会におきましても絶対欠かす事の出来ない重鎮でした。

それが昨年の半ば頃から欠席するようになり、肺疾患のため入院加療中も、人には迷惑をかけたくないと

の一点張りでお見舞いを拒み続けていましたが、新年を是非自宅で迎えたいとの願いもむなしく、昨年暮れの27日帰らぬ人となりました。氏が長年役員を務めた船橋歯科医師会創立60周年の祝賀会が今年の1月に開催され、その記念特集号に氏の遺稿が載っていましたが、以下の様に結んでありました。

私も年齢を思い、身体の衰弱を感じずにつけても心に浮かぶ和歌がございます。

## 歯士会（昭和38年卒）

明智光秀の娘で、後に細川忠興の妻となり、細川ガラシャとしての最後の辞世の歌です。

「散りぬべき、時知りてこそ、世の中の、花は花なれ、人は人なれ」

氏の心情と母校の教え「歯科医師である前に人間たれ」そして校歌「日に夜に祈らむ人なり道なり」は相通じるものがあるように思われ、改めて心からご冥福をお祈りいたします。

合掌  
（西山 弘 記）

## 伊木信太郎君を悼む

七十七期会（昭和47年卒）

6月26日の夜、伊木信太郎君の訃報が入りました。驚きと信じられない気持ちで呆然と立ちすくみました。しばらく便りがなくても、会えば、何事もなかったかのように話の続きが出来る親友でした。そんな友を失ったことの大きさをひしひしと感じています。

信太郎君は岡山の旧家の生まれでした。その育ちの良さは、彼の趣味の広さに象徴されています。市川の彼の下宿でチャイコフスキーの祝典序曲「1812年」のレコードを聴いた時の感動は昨日のここのように思い出されます。私がクラシックを好きになったのは、それがきっかけでした。

彼は鉄道に憧れていました。彼が

行きたい路線の時刻表は分単位で彼の頭の中に入っていました。旅行クラブ雑誌「旅のうた」創刊号(1967年)に、彼は「時刻表より」という一文を書きました。そこには、列車名、駅名など実に詳細な記述があり、その知識の深さは趣味の域を超えるほどのものでした。この創刊号は、懐かしい思い出とともに今でも私の本棚にあります。

ある時、彼が一晩かけて山手線を歩いて一周したとうれしそうに話したことがあります。さりげなく、そんなことを話す友は、私にとって夢の世界を歩く人でもありました。私も旅が好きなので、彼と一緒に全国あちらこちらへ出かけました。彼と一緒に過ごした旅の時間は、私に

とって色あせることのない青春の思い出そのものです。

彼の育ちの良さは、彼の生き方にも現れていました。「水流れ、心競わず、雲存り、意は俱に遅し（杜甫）」。彼の生き方はこの詩歌のままに、いつも悠然とした大河の流れのようでした。そんな信太郎君は、あくせくと生きる私の心を洗う大河となって未だに私の心の中に流れています。

閑夜君を思いて、座して明に到る、往事を追尋すれば、倍々情を傷ましむ（元稹）

心からご冥福を祈ります。

（昭和44年卒・田島基紀 記）

## 大平秀明君へ捧ぐ

弥生会（昭和54年卒）



一ひたすらに、コソコソと一  
大平秀明君に初めて会ったのは、昭和48年市川の平屋建ての進学過程で行わ

れた入学式。背広姿で決め込んでもいまいち決まらず、格好のいいことにはあまり興味が無く、お酒もまるでやらない。堅物かと言えば全くそうではない。そんな秀明君と意気投合し、以後スキー部で6年間苦楽を共にした。私のような悪友に恵まれ?てしまい、競技スキー部でありながら、どちらかというと軟弱グ

ループに快く参加してくれたのも、彼の人柄の良さからか。学年が進むにつれさらに友好を深めることになった。

そんな彼が頭角を表したのは学部に入ってからだった。抜群の器用さで補綴実習では他を圧倒していた。生来几帳面な性格で仕事はすごく丁寧、実習の苦手な友には最後まで親身になり面倒をみる姿が目焼き付いている。ペン習字のような達筆な字は、彼の性格そのものだった。いつの日かクラスの中心人物となっていた。物腰柔らかかぬくもりのある人柄、自分のことは差し置いても人の面倒をみてしまう。クラスの誰も

が秀明君のことを親友と思っていたに違いない。

何でも最後まであきらめない、ひたすらにこつこつとこつこつと、それが彼の生き様だった。

秀明君の闘病生活を献身的に支えられたすばらしい奥様、既に歯科医師として研修に励んでおられるお嬢様、そして特待生5年生の息子さんに見守られ、彼は54歳という若さで永い旅路についた。

市川で初めて会った時から35年の歳月、本当にありがとう。秀明君の人となりは、これからも心の中に生きています。（吉野成史 記）

## ◆投稿規定

- (1) 原稿締切り  
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式  
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
  - ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
  - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文  
のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
  - ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。  
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却  
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

## ◆へんしゅうこうき

★ 今年もあつと言う間に半ばを過ぎてしまいました。

同窓の先生方の夏休みは如何ですか? 最近はお盆に拘らず9月の連休あたりにお休みする先生もいらっしゃいますね。趣味に旅行に有意義にお過ごし下さい。

★ 休みの楽しみの1つが読書の先生も沢山いらっしゃると思います。私が最近読んだ中では、ハヤカワ文庫の「深海のYrr」が良かったです。全3巻で1500頁を越す独人作家のものですが、自然、文明、人間関係と世界各地の話が1つにつながり…読み始めると止まらなくなると思います。映画化も決まっているようですし、外国物のノベルスの好きな方には、もうご存知かもしれませんが、おすすめいたします。

★ 今回のふるさと自慢は千葉の美味しいものの記事です。頂いた写真は大きなカラーでしたので本当に目の前に御馳走がだされたようで広報委員皆のお腹がなりました。

★ 金子学長と大山同窓会長の座談会で移転計画等が、説明されています。皆様いろいろな御意見がおありでしょうが、新しい時代に立派に存在する本学であって欲しいという気持ちは、同窓皆の一致した考えです。進行が速やかであるとよいです。

★ 秋になるとクラス会シーズン。久しぶりに会う笑顔の同級生と楽しい会話が沢山できますように。

(尾崎圭子 記)

## 広報部委員会

委員長 小林 伯男  
委員 内山 健志  
林 量一  
東郷 幹夫  
白田 準  
小池 修  
尾崎 圭子  
福井 雅之

広報部担当理事 三友 和夫

平成20年8月20日 印刷

平成20年8月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第365号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 三 友 和 夫

編集人 小 林 伯 男

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)